

NEWS LETTER

14時30分解禁

令和元年6月 全国百貨店売上高概況

令和元年7月23日

I. 概況

1. 売上高総額	4,789億円余
2. 前年同月比	-0.9% (店舗数調整後/3か月連続マイナス)
3. 調査対象百貨店	78社 215店 (令和元年5月対比±0店)
4. 総店舗面積	5,406,784㎡ (前年同月比:-2.5%)
5. 総従業員数	66,666人 (前年同月比:-4.8%)
6. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	11-1月 -1.3%、12-2月 -1.1%、1-3月 -0.9%、 2-4月 -0.2%、3-5月 -0.6%、4-6月 -0.9%

[参考] 平成30年6月の売上高増減率は3.1% (店舗数調整後)

【特徴】

6月の売上高は0.9%減と前年実績には僅かに届かず、3か月連続のマイナスとなった。中旬以降の低温多雨に加え、月末の台風など悪天候による集客減が響き、主力の夏物商材が苦戦。同時期開催のクリアランスセールは盛り上がりには欠ける結果となった。

顧客別では、円高基調にあるもののインバウンド(シェア5.9%)が0.6%増(283億円/5か月連続)と前年を確保。購買客数(1.4%減)の減少を購買単価(2.1%増)の増加で補う形で推移した。一方国内市場(シェア94.1%)は前月より0.4ポイント改善したが1.0%減となった。

地区別では、10都市のうち5都市(名古屋、京都、大阪、広島、福岡)で対前年増と、合計ではほぼ前年並み(0.1%減)。地方(10都市以外の地区)は2.8%減(26か月連続)と厳しい状況が続くが、3地区(北海道、近畿、四国)ではプラスした。

商品別では、ラグジュアリーブランドが好調だった身のまわり品(0.6%増)が3か月ぶりにプラス転換した。雑貨(1.7%増)は引き続き増勢を維持し5か月連続増。化粧品(0.2%増)に加え、宝飾、時計、美術などの高額品(美術・宝飾・貴金属:8.9%増)が牽引した。

衣料品(1.7%減)は、前月より0.8ポイント改善したものの、天候与件で盛夏物が振るわずマイナス基調で推移した。紳士服・洋品(0.2%増)はプラスに転じた半面、主力の婦人服・洋品(1.7%減)が苦戦した。食料品(1.4%減)は2か月連続減も、菓子と惣菜は引き続き好調。

中元商戦前半は、WEB受注が二桁増の店舗もあり堅調な滑り出しを見せている。

【要因】

(1) 天候 : 気象庁発表「6月の天候」の特徴は以下のとおり(一部抜粋)

◇日照時間は東・西日本で多かった。降水量は西日本で少なかったが、北日本太平洋側と東日本では多く、下旬の台風通過後、梅雨前線の活動が活発となり東日本日本海側や西日本太平洋側を中心に大雨となった所があった。上旬は全国的に気温が高かったが、中旬は東・西日本などでは気温が平年を下回る時期があった。北日本では平均気温が高かった。

(2) 営業日数増減 29.8日(前年同月比 ±0.0日)

(3) 土・日・祝日の合計 10日(// +1日/日曜1日増)

(4) 入店客数増減(回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数123店舗)

①増加した:22店、②変化なし:40店、③減少した:61店

(5) 6月歳時記(中元、父の日)の売上(同上/有効回答数79店舗)

①増加した:6店、②変化なし:38店、③減少した:35店

NEWS LETTER

全国百貨店 売上高速報 2019年6月

第1表 地区別売上高

※店舗数調整後 ()が調整前

地 区	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
全 国	478,974,174	100.0	-0.9 (-1.6)
10都市	342,961,443	71.6	-0.1 (-0.8)
札幌	12,397,130	2.6	-0.6
仙台	6,122,387	1.3	-1.5
東京	138,787,989	29.0	-1.3
横浜	30,706,998	6.4	-1.4
名古屋	30,342,184	6.3	1.4 (-6.5)
京都	19,490,568	4.1	0.6
大阪	67,178,191	14.0	2.3
神戸	11,110,243	2.3	-2.1
広島	9,917,171	2.1	0.2
福岡	16,908,582	3.5	2.5
10都市以外の地区	136,012,731	28.4	-2.8 (-3.7)
北海道	1,109,659	0.2	1.6 (-21.4)
東北	6,595,891	1.4	-2.8
関東	61,618,284	12.9	-4.0
中部	10,846,482	2.3	-1.5
近畿	17,817,451	3.7	0.4
中国	10,210,246	2.1	-4.4
四国	7,680,579	1.6	0.9
九州	20,134,139	4.2	-3.2 (-7.4)

第2表 商品別売上高

商 品 別	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%) ※
総 額	478,974,174	100.0	-0.9 (-1.6)
紳士服・洋品	31,368,135	6.5	0.2 (-0.5)
婦人服・洋品	88,597,572	18.5	-1.7 (-2.5)
子供服・洋品	8,547,611	1.8	-3.7 (-3.9)
その他衣料品	9,097,222	1.9	-6.3 (-7.5)
衣 料 品	137,610,540	28.7	-1.7 (-2.5)
身のまわり品	63,457,106	13.2	0.6 (-0.1)
化粧品	46,397,731	9.7	0.2 (-0.2)
美術・宝飾・貴金属	33,863,862	7.1	8.9 (6.7)
その他雑貨	15,487,722	3.2	-7.5 (-8.2)
雑 貨	95,749,315	20.0	1.7 (0.7)
家 具	4,611,042	1.0	-5.5 (-6.9)
家 電	1,442,601	0.3	46.9 (46.8)
その他家庭用品	12,366,309	2.6	-6.4 (-8.1)
家 庭 用 品	18,419,952	3.8	-3.4 (-5.0)
生 鮮 食 品	26,269,306	5.5	-3.4 (-4.1)
菓 子	35,409,605	7.4	1.1 (0.7)
惣 菜	28,458,989	5.9	0.1 (-0.3)
その他食料品	46,443,548	9.7	-3.1 (-3.6)
食 料 品	136,581,448	28.5	-1.4 (-1.9)
食 堂 喫 茶	12,206,986	2.5	-2.3 (-3.0)
サ ー ビ ス	4,813,333	1.0	0.0 (-0.6)
そ の 他	10,135,494	2.1	-7.9 (-9.4)
商 品 券	13,816,717	2.9	-13.8 (-13.9)

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。商品券は総額に含まれません。また、商品券の構成比は、総額に対する比率です。本統計には消費税は含まれておりません。

NEWS LETTER

Ⅱ. 地区別の動き

- | | |
|------------------|---------------------------|
| 1. 10都市売上動向 | -0.1% (店舗数調整後／3か月連続マイナス) |
| 2. 10都市以外の地区売上動向 | -2.8% (店舗数調整後／26か月連続マイナス) |

【地区別売上前年比の寄与度とトレンド】

地区	売上前年比	寄与度	トレンド
10都市	-0.1	-0.1	3か月連続マイナス
札幌	-0.6	-0.0	2か月ぶりマイナス
仙台	-1.5	-0.0	2か月ぶりマイナス
東京	-1.3	-0.4	3か月連続マイナス
横浜	-1.4	-0.1	2か月ぶりマイナス
名古屋	1.4	0.1	5か月連続プラス
京都	0.6	0.0	4か月ぶりプラス
大阪	2.3	0.3	5か月連続プラス
神戸	-2.1	-0.1	8か月連続マイナス
広島	0.2	0.0	2か月連続プラス
福岡	2.5	0.1	4か月連続プラス
10都市以外の地区	-2.8	-0.8	26か月連続マイナス
北海道	1.6	0.0	2か月連続プラス*
東北	-2.8	-0.0	4か月連続マイナス*
関東	-4.0	-0.5	12か月連続マイナス
中部	-1.5	-0.0	12か月連続マイナス
近畿	0.4	0.0	2か月ぶりプラス
中国	-4.4	-0.1	15か月連続マイナス*
四国	0.9	0.0	4か月ぶりプラス
九州	-3.2	-0.1	4か月連続マイナス*

(注) 北海道、東北、中国、九州については、2006年1月からそれぞれ札幌、仙台、広島、福岡を10都市に移行した。(2005年までは6大都市)

NEWS LETTER

Ⅲ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が5か月連続、身のまわり品が3か月ぶりのプラスとなった。また、家庭用品が42か月連続、衣料品が12か月連続、食料品が2か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、化粧品が51か月連続、美術・宝飾・貴金属、菓子が5か月連続、惣菜が3か月連続、家電が3か月ぶり、紳士服・洋品が12か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-0.9	—	3か月連続マイナス
紳士服・洋品	0.2	0.0	12か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-1.7	-0.3	4か月連続マイナス
子供服・洋品	-3.7	-0.1	12か月連続マイナス
その他衣料品	-6.3	-0.1	44か月連続マイナス
衣料品	-1.7	-0.5	12か月連続マイナス
身のまわり品	0.6	0.1	3か月ぶりプラス
化粧品	0.2	0.0	51か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	8.9	0.6	5か月連続プラス*
その他雑貨	-7.5	-0.3	6か月連続マイナス*
雑貨	1.7	0.3	5か月連続プラス
家具	-5.5	-0.1	2か月連続マイナス
家電	46.9	0.1	3か月ぶりプラス
その他家庭用品	-6.4	-0.2	39か月連続マイナス
家庭用品	-3.4	-0.1	42か月連続マイナス
生鮮食品	-3.4	-0.2	8か月連続マイナス*
菓子	1.1	0.1	5か月連続プラス*
惣菜	0.1	0.0	3か月連続プラス*
その他食料品	-3.1	-0.3	3か月連続マイナス*
食料品	-1.4	-0.4	2か月連続マイナス
食堂喫茶	-2.3	-0.1	26か月連続マイナス
サービス	+0.0	0.0	2か月連続プラス
その他	-7.9	-0.2	3か月連続マイナス
商品券	-13.8	-0.5	100か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

NEWS LETTER

令和元年6月 東京地区百貨店売上高概況

令和元年7月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 387億円余
2. 前年同月比	-1.3% (3か月連続マイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭0.0% (92.5%) : 非店頭-15.1% (7.5%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (令和元年5月対比±0店)
5. 総店舗面積	835,418㎡ (前年同月比:-0.7%)
6. 総従業員数	17,463人 (前年同月比:-4.5%)
7. 3か月移動平均値	11-1月 -1.2%、12-2月 -1.5%、1-3月 -1.0%、 2-4月 -0.2%、3-5月 -0.6%、4-6月 -1.2%

[参考] 平成30年6月の売上高増減率は6.9%

【特徴】

- (1) 6月の東京地区は、低気温や台風の影響などもあり、入店客数は1.1%減と20か月ぶりに前年割れ。特選雑貨や宝飾など高額品は高伸び好調だったが、天候与件による購買心理の低下からクリアランスは苦戦した。盛夏アイテムの動きが悪く、売上高は3か月連続減(1.3%減)となった。
- (2) 商品別では、宝飾、時計、美術、眼鏡等高額商材が牽引し、雑貨(0.5%増)が5か月連続プラス。一方、これまで好調推移していた化粧品は、品薄感に加え、円高によるインバウンドの鈍化もあり51か月ぶりにマイナスした。
- (3) 衣料品(2.1%減)は、夏物アイテムが全般的に不調な中、ジャケット、ワンピース、Tシャツ、パンツは好調だった。紳士服・洋品は前年をクリアし、特選スーツなども動いた。身のまわり品(1.8%減)は、ラグジュアリーブランドなどを含むハンドバッグ、傘、一部改装効果が見られた紳士靴、スニーカーなどのカジュアルシューズが好調も、パンプス、サンダル等の動きはよくなかった。
- (4) 食料品(1.0%減)は、洋菓子、惣菜、和洋酒などが動いたが、涼感のある和菓子やゼリーなどは低調だった。また、生鮮食品の動きが鈍く、天候不順による果物などの入荷減も見られた。
- (5) 中元商戦は、店頭のマイナス分を好調なWEB受注がカバーし推移。なお、10月の消費税率引上げ前の駆け込み需要については、今のところ大きな動きは見られない。
- (6) 7月中間段階の商況は、4.0%減(7/17)で推移している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数19店舗)
①増加した: 3店、②変化なし: 7店、③減少した: 9店
- (3) 6月歳時記(中元、父の日)の売上(同上/有効回答数11店舗)
①増加した: 1店、②変化なし: 5店、③減少した: 5店

東京地区百貨店 売上高速報 2019年6月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	138,787,989	100.0	-1.3
紳士服・洋品	10,853,404	7.8	0.2
婦人服・洋品	22,567,434	16.3	-2.3
子供服・洋品	2,080,311	1.5	-4.7
その他衣料品	2,259,921	1.6	-7.2
衣 料 品	37,761,070	27.2	-2.1
身のまわり品	19,277,166	13.9	-1.8
化粧品	13,879,176	10.0	-4.4
美術・宝飾・貴金属	11,112,230	8.0	13.7
その他雑貨	5,078,137	3.7	-9.9
雑 貨	30,069,543	21.7	0.5
家 具	1,370,232	1.0	-7.1
家 電	869,755	0.6	41.3
その他家庭用品	3,221,970	2.3	-12.0
家 庭 用 品	5,461,957	3.9	-5.0
生 鮮 食 品	5,480,428	3.9	-4.2
菓 子	10,092,329	7.3	0.8
惣 菜	7,155,182	5.2	0.3
その他食料品	14,623,376	10.5	-1.5
食 料 品	37,351,315	26.9	-1.0
食 堂 喫 茶	2,824,581	2.0	-7.6
サ ー ビ ス	2,012,799	1.5	-1.6
そ の 他	4,029,558	2.9	0.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	3,121,594 千円	-29.4
従 業 員 数	17,463 人	-4.5
店 舗 面 積	835,418 m ²	-0.7

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、雑貨が5か月連続のプラスとなった。また、家庭用品が10か月連続、衣料品が8か月連続、身のまわり品が3か月連続、食料品が2か月連続のマイナスとなった。その他の品目は、菓子が10か月連続、美術・宝飾・貴金属が5か月連続、惣菜が4か月連続、紳士服・洋品、家電が3か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-1.3	—	3か月連続マイナス
紳士服・洋品	0.2	0.0	3か月ぶりプラス
婦人服・洋品	-2.3	-0.4	4か月連続マイナス
子供服・洋品	-4.7	-0.1	9か月連続マイナス
その他衣料品	-7.2	-0.1	4か月連続マイナス
衣料品	-2.1	-0.6	8か月連続マイナス
身のまわり品	-1.8	-0.2	3か月連続マイナス
化粧品	-4.4	-0.4	51か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	13.7	0.9	5か月連続プラス*
その他雑貨	-9.9	-0.4	5か月連続マイナス*
雑貨	0.5	0.1	5か月連続プラス
家具	-7.1	-0.1	3か月ぶりマイナス
家電	41.3	0.2	3か月ぶりプラス
その他家庭用品	-12.0	-0.3	12か月連続マイナス
家庭用品	-5.0	-0.2	10か月連続マイナス
生鮮食品	-4.2	-0.2	9か月連続マイナス*
菓子	0.8	0.1	10か月連続プラス*
惣菜	0.3	0.0	4か月連続プラス*
その他食料品	-1.5	-0.2	3か月ぶりマイナス*
食料品	-1.0	-0.3	2か月連続マイナス
食堂喫茶	-7.6	-0.2	10か月連続マイナス
サービス	-1.6	-0.0	2か月ぶりマイナス
その他	0.7	0.0	5か月ぶりプラス
商品券	-29.4	-0.9	9か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・橘・長柴 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>